



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 54 《佐藤誠 所長》
- ◆看護師さんのページ NO. 34 《天野芳子 看護部長》
- ◆研修医のページ NO. 37 《田中道德先生》
- ◆平成 26 年度第 1 回ブラッシュアップ講習会
- ◆平成 26 年度第 1 回地域医療支援会議
- ◆平成 26 年度しまね研修ナビ



NO. 54

浜田市国民健康保険 あさひ診療所

所長 佐藤 誠



2005年浜田市と旧那賀郡3町1村が合併し、新浜田市ができました。その合併の直前に当診療所はできました。現在は、弥栄、波佐、大麻の3診療所、市の地域医療対策課とともに浜田市国民健康保険診療所連合体として市民の健康を守っています。

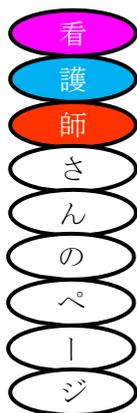
私は昨年、当診療所の4代目の所長として赴任しました。学生時代にはこれをずっとやっていきたいという専門科に出会えず、全部面白いくけど全部やるわけにもいかないし・・・、とっていました。そんな時に患者さん全てを診る家庭医療に出会い、その後患者、家族だけでなく、地域をまるごと診る地域医療に惹かれ、とくにわかりやすいへき地医療の面白さに魅力を感じ働いてきました。医師になってからは地域医療振興協会という組織に属し、神

奈川、岐阜、福岡、茨城、新潟と全国を回りながら後期研修を終え、どこか長く地域医療に携われる場所がないかと探し、浜田にやってきました。

昨年からは働き始めた浜田市旭町は人口3000人の町で、当診療所の他に開業医の先生が一人いらっしやいます。過疎化が進んだ山間へき地の皆様と、島根あさひ社会復帰促進センターの刑務官の方やそのご家族を同時に診ることの出来るちよつと変わったところですよ。ご存知のとおり、島根県は高齢化が進んでおり当地域も例外ではありません。また他の地方(新潟や岐阜など)と比べると山がなだらかで、家がまばらに広い地域にあるような印象を受けます。公共交通機関もやはり少なく、車が運転できないと通院どころか生活もままならなくなります。診療所に来てくださる患者さんを待っていて、その患者さんを診るだけでは、地域医療は充分ではありません。地域医療は専門家の立場からの街づくりのよりに最近感じています。やらねばならぬことは目の前に山積しておりますが、他職種と連携を取りながら、焦らず迅速に問題に取り組んでいきたいと思えます。

もう一つ取組みたいのは地域医療、家庭医療に関わる後輩の育成です。本

稿を目にされる方はご存知としますが、地域医療は非常に面白いです。島根大学を始め、多くの学生や研修医に面白さを伝えるだけでなく、地域医療に取り組むことで何かが変わったという実績と研究を数値で出すことも求められているのではないかと考えます。地域の現場に密着した、地域医療ならではの研究も行いたいと考えています。また、しばらくして本稿でその後の報告ができることを楽しみにしています。



NO. 34

国立病院機構 浜田医療センター

看護部長 天野 芳子

当院は主として急性期医療を担う、島根県西部の中核病院です。標榜診療科は27科で、病床数は365床(一般361床、感染症4床)です。地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域医療拠点病院、地域災害拠点病院、地域医療支援病院等としての機能を有しています。平成21年11月に現在の浅井町に新築移転しました。JR浜田駅に隣接し駅舎と直結しています。また広島や山陽方面に出掛ける場合にも、駅前にはバス停があり、とても

便利です。

「心のこもった情のある医療」を基本理念とし、患者様やそのご家族の信頼と満足が得られる医療・看護を目指しています。

平成23年度には病院機能評価Ver.6を受審し、認定証をいただきました。平成25年からは県の地域災害拠点病院に指定され、DMATチーム及び災害時の初動医療班を常備し、備蓄倉庫などの設備を充実させ、災害に対応する体制を整えています。また、平成26年4月には病院敷地内のヘリポートの運用を開始することにより、県西部の救急医療だけでなく、広域災害にも対応できるようになりました。



夜間防災ヘリ訓練

分娩については年間500例以上を扱っています。手術件数は約2300件です。緩和ケア病棟は15床で、地域がん診療連携拠点病院として重要な役割を果たしています。当院は国立病院機構全国143施設、中四国グループ

22施設の

中の1施設でもありません。健全な経営に努めながら、浜田医療圏で急性期医療を担うとともに、亜急性期医療等にも幅広く対応しています。

看護単位は10単位(救命救急センター、一般病棟5部署、回復期リハ病棟、緩和ケア病棟、手術・中材、外来)で固定チームナースングを行っています。勤務体制は一般病棟では二交替勤務(12時間)で、救命救急センターのみ三交替勤務です。看護の施設基準は10対1看護でしたが、6月から7対1看護が取得できるようになりました。これは昨年から平均在院日数の短縮、看護必要度の適切な評価、亜急性期病床の適正運用等に力を入れ、今年度病床管理部門を強化し、7対1看護施設基準取得に向けた病床管理を行った結果だと思えます。今後は施設基準を満たすためにも、看護部の役割を果たして行きたいと思えます。



今年度採用新卒者 28名

看護師の教育では教育担当師長(専従)が中心となり、新人研修や経年別実務研修、専門分野研修などキャリアアップできる教育体制を整えています。現在16名(12分野)の認定看護師が専門分野研修や各分野で活躍しています。またチーム医療の中心的役割も果たしています。看護部では看護の質向上のため認定看護師の活動を支援しています。認定看護師の活動の一例として、誤嚥性肺炎患者が出来るだけ早く退院できるように、摂食・嚥下障害看護、脳卒中リハビリテーション看護、集中ケアの認定看護師が病棟に出向き、各専門分野での看護や技術指導に当たっています。

高齢化率が高く、過疎化の進むこの地域においては、退院後の生活を見据えた医療・看護が重要となります。早期に地域医療連携室と連携し、患者が安心して退院できる体制を整備したいと思えます。多くの課題を抱えています。が、浜田医療センターが役割を果たすために、柔軟な対応の出来る看護部になりたいと思っています。



心のこもった 情のある医療

研
修
医
の
パ
ー
シ

松江生協病院

1年目研修医 田中 道德



はじめましての
方は「初めまして、お久しぶりの方はお久しぶり」

です。松江生協病院にて初期研修をさせて頂いている医者歴2か月の田中道德と申します。生協病院では「軽トラ」Dr. 田中と呼ばれています(勝手に名乗っています)ので、もし僕のことを見かけたら気軽に「軽トラ」Dr.と呼んでください。

さて、僕が医者になって早くも2か月が経とうとしています。この2カ月は、毎日の業務に追われ、合間に勉強、さらに県外での研修会、学会に出かけたりと怒涛のような日々でした(それからちよつと実家の田んぼの手伝い)。その間は、病気が良くなっていくのを患者さんとともに喜び、誤嚥で入院されている患者さんが嚥下造影で飲みこ

めているのを確認して感動し、様々な場面でコミュニケーションができないことに悩み、初めてのお別れに涙し、施設見学で「世界で一つだけの花」を全力で歌い、そして、カラオケで全力で踊ったりと充実した医師Lifeを送らせていただいております。

僕が研修している松江生協病院は、島根県東部にある333床の中規模病院です。2か月間この病院で研修させていただいて、Common diseaseに多く出会えるとか、手技がたくさんできるなどよかったことがたくさんありますが、特によかったと思うところが2点あります。

まず1つ目は自分の希望に応じて研修内容を柔軟に変えていただけるところです。僕の夢は鹿島町で家庭医として働くことなのですが、この夢を理解していただける先生がいて、夢のために必要な研修と一緒に考え、それに応じて柔軟に研修内容を変更して下さいます（僕としては夢を理解して下さい）。そして2つ目は、医療というものが医師だけで成り立っているものではないことを実感できるような研修をさせていただいている点です。看護実習などの導入研修で他職種の話の聴いたりするだけで終わりにするのではなく、

日々の業務の中でも他職種と関わるタ イミングがあれば積極的に行きなさい、 という指導のもとたくさんの方々とお話する機会があります。他の研修病院でこのような機会があるのかは分かりませんが、僕としてはこの病院で今の指導医と出会えて幸せ者だと実感しています。

日々失敗ばかりで多くの方々にご助けられてばかりの未熟者ですが、いつかに働くことができてよかった」と言っていただけのような医者になれるように精進して参る所存ですので、よろしくお願い申し上げます。



平成26年度第一回 ブラッシュアップ講習会

平成26年度第一回ブラッシュアップ講習会を6月8日(日)に浜田医療センターで開催しました。この講習会は「総合医・家庭医育成ネットワーク事業」の一環として、指導医・研修医・医療機関関係者・行政関係者を対象に、県内の後期臨床研修プログラムのブラッシュアップを目的として、行ってい



ます。今回は、「北海道家庭医療学センター」理事長であり、「日本プライマリ・ケア連合学会」副理事長でもある、草場鉄周先生を講師にお招きしました。前半は「総合診療医の目指すもの」、後半は「北海道家庭医療学センターの挑戦」と題してご講演いただきました。前半では総合診療専門医のあり方や、新しい専門医制度を、現在のものと比較してお話しいただき、総合診療専門医制度の最前線がうかがうことができました。後半では「北海道家庭医療学センター」での、各段階に応じた教育の取組みの

「これからの進路を選ぶ上で、家庭医という選択肢に期待と不安があったが、家庭医なるもの」という話が聞けて良かった」という感想も聞くことができました。また今回初の試みで、浜田会場以外にも、5会場(島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、出雲市民病院、隠岐病院、隠岐島前病院)に、TV会議システムで中継し、遠方の先生にも貴重なご講演を聞いていただくことが出来ました。早速ビデオレコーを取り入れてみたいと話されています先生もおられ、島根での研修がますますブラッシュアップされることを期待しています。

次回のブラッシュアップ講習会は、11月23日(日)雲南市立病院にて、沖縄県立中部病院、尾原晴雄先生をお迎えし開催する予定です。興味のある方は、ぜひご参加ください。

【地域医療支援学講座 日高】



ご講演いただきました。医学生、研修医に対しては、医療面接を客観的に評価するビデオレビューなどに始まり、卒後6〜7年目を対象とした、フェローシップでの家庭医療診療や家庭医療研究における教育など、家庭医の活動の幅の広さ、そして家庭医療の魅力を充分にうかがうことができました。当日参加された研修医の先生からは、

平成26年度第一回
地域医療支援会議

平成26年度第1回島根県地域医療支援会議を6月10日(火)に、ホテル白鳥(松江市)において開催しました。

今回は委員改選後最初の会議であり、冒頭で会長には島根県病院事業管理者の中川正久氏が委員の互選で選出されました。また、今回の改選で県薬剤師会にも委員として加わっていただきました。

会議では、消費税財源を活用した医療・介護サービスの提供改革のための新たな財政支援制度に基づく県計画案についてご説明をしました。この案は、
①医療従事者確保対策 ②在宅医療の推進 ③医療連携の強化促進の3つの柱で構成しています。

医療従事者については、医師の確保対策、看護職員、薬剤師・歯科



衛生士等の確保対策、各職種に共通する医療従事者確保対策のほか勤務環境改善対策を盛り込んでいます。

今回の会議には幅広い地域の関係者の御意見をお聞きするため、介護福祉分野の特別委員にも参加いただきました。委員、特別委員からは、民間病院への配慮の要望などの他、県の補助方式や今後のスケジュール等についてのご質問がありました。

今後、7月中旬以降の国のヒアリングを経て、再度、地域医療支援会議に諮った上で計画を策定する予定です。貴重な財源を有効に使えるよう、さらに検討を進めていきたいと考えています。

【医療政策課 神村】

平成26年度しまね研修ナビ

「しまね研修ナビ」が6月14日(土)に島根大学医学部で開催されました。

「しまね研修ナビ」は、県内の病院で初期臨床研修を行う研修医を増やすため、来春卒業予定の医学生を対象に、県内の各臨床研修病院等の研修プログラムの紹介や個別相談を行う場として、毎年この時期に開催されています。

今年も、

島根大学医学部附属病院の各診療科と、県内6つの臨床研修病院が参加して行われました。



最初に、各病院の研修医の方が、各病院の特色や研修プログラムのアピールポイントを、それぞれ趣向を凝らした演出で紹介されました。

次に、島根大学医学部附属病院神経内科で後期研修中の稲垣論史先生が、島根大学と松江赤十字病院とのたすき掛けで初期研修を受けられた経験を発表され、大学と市中病院それぞれの研修の特徴を分かりやすく説明されました。

平成26年度に、県内で初期臨床研修を始めた方は49人です。4月には合同研修会が開催されるなど、県内で勤務する若手医師を支援する取組みが進められていますので、今年度のマッチングでは、さらに多くの方が県内病院での研修を選択されることを期待しています。

【医療政策課 宍倉】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー(県負担)を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryoud@pref.shimane.lg.jp
ホームページ: [島根の医師確保対策](#)

